

# 心といのちを守る県民運動 次第

日時 平成23年8月1日(月)

午後1時45分～3時

場所 白兔会館 飛翔の間

## 1 開 会

## 2 挨 拶

## 3 議 題

報告事項：

- ① 鳥取県の自殺の現状・分析
- ② 自死遺族自助グループと各団体（警察、労働局）との意見交換結果

協議事項：

- ① 重点的に取り組むべき施策の提案・協議

(例)

- ・ 相談窓口職員の人材育成
- ・ 自殺予防に関する普及啓発
- ・ かかりつけ医と精神科医との連携
- ・ 自殺対策推進体制の整備(ネットワークづくり)
- ・ 具体の課題に対応した個別機関同士の意見交換会 など

- ② その他

## 4 閉 会

心といのちを守る県民運動委員出席名簿

分野	所属団体等	職名等	氏名	備考
県	鳥取県	副知事	藤井 喜臣	
精神保健	(社)鳥取県医師会	常任理事	渡辺 憲	
	鳥取大学医学部脳神経医学科学講座精神行動医学分野	教授	兼子 幸一	欠席
	(社)鳥取県看護協会	常任委員	川口 慶子	
	鳥取県精神保健福祉センター	所長	原田 豊	
多重債務問題	鳥取県弁護士会		寺垣 琢生	欠席
	鳥取県司法書士会	会長	坂本 治	
	鳥取県消費生活センター	所長	佐々木 賢二	
経営問題	鳥取商工会議所	中小企業振興部部長心得・次長	林 浩志	
労働問題	鳥取労働局	労働基準部健康安全課長	東 好宣	
	独立行政法人労働者健康福祉機構鳥取産業保健推進連絡事務所	産業保健推進員	中尾 康師	
学校問題	鳥取県PTA協議会	理事	山口 一樹	欠席
	教育センター	教育相談課長	護田 彰一	
救急医療	鳥取県立中央病院	地域連携センターがん相談支援室臨床心理士	藤松 義人	
警察	鳥取県警察本部	捜査第一課長	小谷 照美	(代理)検視担当係長 坂口貴洋
		生活安全企画課長	竹本 廣幸	
自殺予防の民間団体	(福)鳥取いのちの電話	事務局長	浅井 富美子	
自死遺族支援の民間団体	コスモスの会	世話人	厨子 麗子	(代理) 尾崎かおる
関係民間団体	家族会(認知症の人と家族の会鳥取県支部)	認知症相談員	吉野 靖子	(代理) 岩田リカ
報道関係	(株)新日本海新聞社	編集制作局次長	倉繁 淳志	欠席
地 域	鳥取県民生児童委員協議会	会長	鈴木 茂	
	鳥取県連合婦人会	常任委員	佐々木 ちゑ子	欠席
	鳥取市中央保健センター	主査兼務健康づくり係長	稲村 英子	
	日南町福祉保健課	主任 保健師	長谷川 照子	
職域	鳥取銀行健康保険組合	保健師	岩本 桂子	

事務局員

福祉保健部	部長		林 由紀子	
	健康医療局健康政策課	課長	大口 豊	
	福祉保健課	課長	中林 宏敬	(代理) 福祉指導支援室長 国岡浩紀
	障がい福祉課	課長	足立 正久	
	長寿社会課	課長	日野 力	(代理) 課長補佐 小林一義
商工労働部	経済通商総室経営支援室	室長	西村 昭	(代理) 主幹 島田義徳
西部総合事務所	福祉保健局	副局長	大城 陽子	
教育委員会事務局	家庭・地域教育課	課長	高橋 紀子	欠席
福祉保健部健康医療局健康政策課	課長補佐		萬井 実	
	主幹		長岡 孝	
	副主幹		朝倉 貴子	
	主事		向井 未央	
精神保健福祉センター	次長		大塚 月子	
東部総合事務所福祉保健局	副主幹		酒嶋 里美	
	保健師		橋本 弘成	
中部総合事務所福祉保健局	主幹		稲田 千明	
西部総合事務所福祉保健局	係長		岡垣 亜矢子	
日野総合事務所福祉保健局	保健師		柴田 由美	

## 平成23年 心といのちを守る県民運動

日 時:平成23年8月1日(月)午後1時45分から3時まで

場 所:白兔会館(飛翔の間)

### <まとめ>

#### 主な意見など

受診体制:地域(ケアマネージャー等)から医療機関へ紹介する場合の書式があるとよい。

自死遺族支援:自死遺族の活動を知る機会を民生児童協議会の研修会などで紹介してはどうか。

啓発 :駅構内の広告を他にも活用してはどうか。

働き盛りの啓発について、商工会議所からのPR協力も可能。

相談体制:いのちの電話の相談員が少ないことが課題。

人材育成:ゲートキーパー研修は、うつ病だけでなく対応方法についての内容を含み、市町村単位、職場単位、民生委員の会などで開催。

### <内容>

#### 報告:

##### ① 鳥取県の自殺の現状・分析

鳥取県も全国的な流れと同様、平成10年から増加。21年160人、22年178人。高齢者に加えて、中高年の男性が増加。

鳥取県自殺対策情報センターから、県及び市町村の自殺対策事業の実施一覧を報告。普及啓発など活動的に実施。

今年は、「自殺予防のための相談対応の手引き」を活用して、ゲートキーパー研修会を中心に実施。

##### ② 自死遺族自助グループと各団体(警察、労働局)との意見交換結果

自死遺族から、遺体の取扱について、マニュアルの整備や遺族への事前説明等についての警察へ要望があった。警察では、職員の研修で指導や遺族に向けた手引きなどを作成し説明を実施しているとのこと。

また、労働局に対し、労働安全衛生の取り組みとその現状について知りたいとの要望があった。メンタルヘルス対策の調査を事業所に実施し、対策を実施している事業所が44%との結果。地域産業保健センターの活用、メンタル対策支援センター等の利用を進めている。

今後、必要に応じ関係者が意見交換できる場を設定し、連携した取り組み、実効性のある取り組みをしたい。

#### 協議:

##### ① 重点的に取り組むべき施策の提案・協議

(日南町)相談体制づくりへの取り組みが必要

学校・地域との連携を強化

→(座長)関係機関で検討してみてもどうか

受診体制:地域関係者(ケアマネージャー等)から紹介状の様式があるとよい  
相談窓口:相談窓口のポスター・チラシ・カード等病院に設置されているとよい  
病院などをわかりやすく検索できるものがあるとよい

自分の身の周りで、じっくり話が聞ける人を育成してもらう取組が必要

遺族支援:家族が亡くなったらお寺を訪れるので、和尚さんとの連携も必要

(県医師会) 開業医から精神科医への紹介:鳥取県では、かかりつけ医と精神科医との連携マニュアルを基に、通常の医療機関同士の連携の書式を活用。

→(事務局)地域から開業医への紹介について検討したい。

(いのちの電話) 相談員が少ないことが課題。養成講座の開催を工夫している。今年度は受講料2万円にして少しでも受講しやすくした。

(自死遺族の会) フォーラム、パネル展、わかちあいの会への参加者が少ない。今回、冊子「コスモスの会(ご遺族の文集)」を発行。(会場で当該冊子を回覧)

警察、お寺、葬儀社等の協力を得ながら、活動を進めたい。

(民生児童委員協議会) 「コスモスの会」を始めて知った。自死遺族の取り組みについて案内があれば、参加したい。

→(座長)民生児童委員協議会の研修メニューの中でも紹介する機会があると思う。

(消費生活センター) 多重債務の問題は、改正貸金業法の改正で、件数が減ってきている。一方、ヤミ金で借りた方が厳しい取立てにあっている相談がある。消費生活センター、警察に相談してほしい。

昨年度から心理カウンセリングを実施。

(認知症の人と家族の会)映画鑑賞と語る会を4箇所で開催。老老介護の果てに、心中を図った夫婦の物語。

(県医師会) 一過性ではなく継続的にいろいろな形で啓発することが大事。県が昨年行った時差予防のテレビCMの効果を把握していたら教えてほしい。

→効果について、数値的には把握できていないが、啓発物などを作成する過程で、人材育成、内部の理解、スキルアップ、波及効果を狙っている。

(鳥取銀行) 鳥銀では、新人行員、30歳前後の職員に、メンタルヘルスについての研修を実施。職場の中で相談体制ができており、治療に入りやすい体制ができています。25年間自殺を選んだ方はいない。

(鳥取商工会議所) 年度末に企業経営者の自殺が非常に多いということが全国的に問題。その時期にチラシ配布と相談回数を増やしている。金融対策で倒産が未然防止されている事業所の倒産が一旦おこると、自殺がクローズアップされてくる。

商工会議所は、県内に4つあるので、PRの依頼は、林委員からつなげること可能。

(日南町) 駅構内のスーミン広告(うつ病予防のパネル)を駅だけではなく、他への活用も検討。

(精神保健福祉センター) ゲートキーパー研修。うつ病についてだけではなく、どう対応したらよいかという内容。市町村単位、職場単位、民生委員の会などで、開催予定。

(県医師会) 地域の通常の活動にシフトしていくことが大事。委員の所属団体等で工夫しながら活動を広げたい。